

大倉山店アニバーサリーセールのお知らせ



おかげさまで今年で開店15周年を迎えます。7月中旬頃にセールを開催予定です。詳しくはお問い合わせください。大倉山店045-547-6241



リメイクチームからのお知らせ

〇ぞうり工房 布ぞうり体験教室

6月21日(水)10:30~15:00(お昼休憩あります)
日吉店にて 体験料1000円(材料費込み)
お申込みは日吉店045-563-1808へ

〇花水木 Tシャツぞうり教室

6月30日(金)13:30~16:00
港北区社協対面朗読室にて
参加費 500円(こうほく会員200円)
7月・9月にもあります
お申込みは大倉山店045-547-6241へ



参加者募集中です!

日吉きもの市

4/19(水)~22(土)

おへそ de 着物市

4/20(木)~4/22(土)

日吉店恒例のきもの市初日は店頭で10数名のお客様が開店を待っていました。お店ががらりと和の雰囲気にかわり、着物を纏う方、帯を入念に選ぶ方、来店者同士で品定めをする方と賑やかで、温かな時間が流れていきました。お店には着物の知識が豊富なボランティアもいますので、会話も弾み、納得されてお買い物をされていました。



おへそ de 着物市は、大倉山で着物を通じた街づくりや世代間交流をめざして活動している『大倉山はんなりプロジェクト』と大倉山店との共催で行われました。これは昨年暮れの大倉山店のきもの市ではんなりプロジェクトのメンバーと出会ったことで実現しました。『おへそ』は商店会の会議所ですが、地元のイベントスペースとして貸し出されています。いつも和服でアドバイザーとして活躍されるボランティアを中心に、はんなりプロジェクトのメンバーも和服で参加。お客様に仕立てのお仕事をされている方がいて疑問に答えていただいたり、その場にいる皆と一緒に着物の世界を楽しんでいました。収益は全額『子どもセンターてんぼ』(子どもの居場所づくり、自立支援をしています)に寄付しました。今回はじめての共催企画でしたがWEを知らなかったお客様や、はんなりプロジェクトの若い方たちのパワーとのつながりができた貴重な機会となりました。

今回はほぼ同時開催となった着物市。両店で宣伝しあい、どちらにも足を運んでくださったお客様も。着て、リメイクして、と楽しめる多くの方たちに、ご寄付の着物がまた生かされる着物市を通して、これからもこうほくの活動をお伝えしていきたいと思ひます。



WE21 ジャパンこうほく ニュース

特定非営利活動法人WE21 ジャパンこうほくは リユース・チャリティショップ「WEショップこうほく」をボランティアで運営し、その収益でアジアの女性たちが自立して暮らしていけるよう民際支援活動をしています。

発行 認定NPO法人WE21 ジャパンこうほく 港北区日吉 2-12-7 TEL/FAX 045-563-1808

<http://we21kk.org>

WE21 ジャパンこうほく



2017年6月
NO. 121

新年度のスタートです!

5月23日の第13回総会で、2016年度の活動・決算、2017年度の方針・予算、定款変更、そして新役員(運営委員14名・監査委員2名)いずれも承認され、新年度の活動が始まりました。大勢の仲間の活動や応援してくださっている地域のみなさんのおかげで、WEショップこうほくオープン15周年を迎えます。今年の大きな活動の一つは よこはま夢ファンドの助成をうけて、こうほく単独でのフィリピン支援地訪問・交流事業です。みんなで支援地を訪れ、顔のみえる民際支援を進めていきたいと思ひます。昨年11月にハノイに転居した運営委員の出席もあり、久しぶりの再会を喜び合い、明るい総会となりました。総会後には記念講演が行われました。[代表 砂田正子]

新旧役員紹介

新任 監査委員	高橋あゆみさん		退任 監査委員	宮川郁美さん
運営委員	板垣洋子さん		運営委員	石川かおりさん
	御簾納明美さん			
	矢部千恵子さん			



記念講演 「だれもが生きやすい地域に」

講師：林 洋子さん NPO 法人精神保健を考える会まいんどくらぶ事務局長
福島原発かながわ訴訟を支援する会共同代表

まいんどくらぶは港北区で地域活動支援センター、授産施設、グループホームを運営しており、「セサミ香房」「カフェ杜」と聞いてぴんとくる方も多いのではないのでしょうか。林さんが最近心を痛めた偏見、差別、いじめ問題を考えながら講演の最後に「暴力」「非暴力」と聞いて思いつくことばを出し合いました。日常使っていることばにはイメージがあり、無意識を意識化することで行動を変える事ができると考えさせられました。

チョコ募金キャンペーン報告 ご協力ありがとうございました。



2016年度のチョコ募金キャンペーンは2016年12月12日から2017年2月10日まで行われ、チョコやカード 900組分と店頭やつどいでの募金合計482688円の募金が集まりました。この募金はJIM-NETが行っている主にイラク戦争によるがん、白血病を患っている子供たちの医療支援のために使われます。WEショップでは2004年から始まったこのキャンペーンに継続して協力しています。

『ただいま』
郡山市永山ゆうや(小6)
「ただいま」
僕には帰る場所がある。
帰るべき場所がある。
居場所があるから、
「ただいま」っていえるんだ。
「ただいま」って幸せだよ。
「ただいま」

そして、毎年JIM-NETの事務局長の佐藤真紀氏から、現地の話を聞く報告会を開いています。今回は1月21日に社協の多目的室で行い、ボランティアや会員による福島の子供たちの詩の朗読も好評でした。今回、新しい動きとして、「JIM-NETハウス(子供サポートハウス)」が出来上がり、患者の家族を総合的にサポートすることができるようになりました。私たちは今後も後方からこの活動に協力していきたいと思ひます。

§ 寿町訪問報告 § 3月4日(土)午前中は寿町バザーの手伝いに5名、午後からは10名が参加して寿日雇労働者組合会長近藤昇さんに寿町の歴史や現状を伺いながら町を案内していただきました。昔は日雇労働者が集まる寄せ場でしたが、今は雇い主が直接労働者に電話で連絡する様にかわり、また労働者の町だったのが今は住人の高齢化で福祉の町にかわったそうです。簡易宿泊所も多くあり、バックパッカーの外国人旅行者にも会いました。そう広くない町には信号は設置されておらず、お年寄りが通りを渡る後ろを車が数台連なって、ゆっくり運転しているのを見ました。街中ではホームレスを見かけることはありませんでしたが、コンビニの前で倒れている男性に救急車をよんでいるところに出会いました。お店の方がとても冷静に対応されていて、寿町はみなに見守られている町、という印象をもちました。



大学生も一緒に寿町をまわりました